

スーパー御庭番の達人たち… ③

ユーザー様のハイレベルな仕事をレポートするこのシリーズ、今回は、初心者が短期間にここまで使いこなせるようになった…という御庭番スーパー上達法をうかがいます。

全くの初心者が、半年で120件以上も！その「スーパー上達」の極意は？

「スーパー上達の達人」安藤仁様のお話

大阪府吹田市
株式会社トゥワン
総務部・安藤仁様



御庭番は初めてでもすぐ使えるのがうれしいわからないことはそのつど教わりました

あの…私、ちょっと場違いじゃないかと思うんですが…。今まで登場した「スーパー御庭番の達人たち」の方々、みなさん本当にスーパーテクニックをお持ちで、普通ではなかなかできないことを工夫して描いていますが、私にはそんなテクニックはありません。プランニングの勉強をしたこともなく、現場経験もありません。それどころか、御庭番を使い始めてまだ半年ほどなんです。全く白紙の状態を使い始めましたが、御庭番は最初からとつきやすく、2日間の講習ですぐにいじれるようになり、1週間ほどすると簡単な絵は描けるようになりました。一つ一つの操作が同じ流れて、たとえば「壁」とか「階段」とか、コマンドは違いますが使い方は一緒なので覚えやすいんです。ただ難しかったのは「勾配」です。現場に行ったこともなく、エクステリアの基本的知識もほとんどなかったので、高低差というものがどうもつかみ

にくくて……。それも単純な傾斜ならまだしも、ひねりが入っていたり凹凸があったりすると、もうお手上げでした。でも藤井常務にわかりやすく図解してもらったり、何度もチェックしてもらったりするうちに少しずつ慣れていって、いまでは図面に入った数字だけで、その勾配が頭に浮かぶようになりました。これまでに120件以上の物件を描いてきましたし、現在月に20件以上は手がけています。勾配もなくアールもないようなシンプルなものなら、大きさにもよりますが2時間程度で仕上げられますね。描くときのコツとしては、全体の色調を統一すること。たとえばナチュラルな感じにしたければ、ページの濃淡でまとめるときれいに見えます。また、メインはエクステリアなので、建物は主張しないようにシンプルに描いています。植栽ももっと使い分けたい、いま勉強中です。今後はエクステリアの勉強をして、言われた通りに描くだけでなく、自分自身でプランニングしながら描けるようになりたいと思っています。

常務取締役・藤井容様のお話

法人営業に、早くて説得力のある御庭番を導入売り上げアップに確実に貢献しています

当社がデベロッパーや建売業者相手の法人営業に本格参入することになった昨年末に、御庭番を導入しました。法人営業の場合、商談ペースが早く、まとまった量のプレゼンテーションをスピーディに提出し、なおかつそれが説得力のあるものでなければならぬため、御庭番は必須だったのです。そして総務の安藤に御庭番を使ってもらったんですが、予想以上に早くマスターしたのは驚きました。外構の基礎知識がないので、勾配をはじめ専門用語につきまこともありましたが、そのつどフォローすることでどんどん上達して、いまではもう安心して任せられます。

おかげさまで、御庭番導入後の法人営業の伸びはめざましく、名古屋にも支店をオープンすることができました。ここでも御庭番を導入する予定です。



常務取締役・藤井容様



最近では、この程度のシンプルな物件なら、2時間もかからないそうです。



上達へのステップ・その1

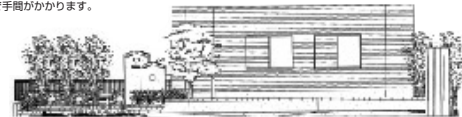
描く → チェック → 描く → チェック で「勾配」など苦手分野もしっかりとマスター



藤井常務からの指示は、こんなふうに図面にメモのなぐり書き。これを見ただけで、きれいなカラーバースを作成できるなんてすごいです！

複雑な勾配、複雑な床材にアールを多用したライン——こんな図面も上手に描けるように。「勾配が場所によって違う場合、傾斜の指定面に合わせていちいちレベルを取るので手間がかかります。もっと簡単に処理できるようにしてほしいですね」

プランは藤井常務が考え、図面にフリーハンドでメモ書きしたものが渡されます。それをもとに御庭番に起こしていくんですが、ひと通り描いたらチェックしてもらい、描き直し、またチェック…というふうに、繰り返しチェックを受けています。そのつど細かい指示をいただけるので、とても分かりやすいのです。苦手だった「勾配」は、高低差の立面図を描いてくれたり、地図の等高線のように高さの線を図面に描き込んでくれたり。そんなふうには繰り返し教えてもらっているうちに、頭の中で立体がイメージできるようになっていったんです。いまでは図面に入った数字だけで勾配が頭に浮かび、複雑な勾配でも戸惑わずに描けるようになりました。

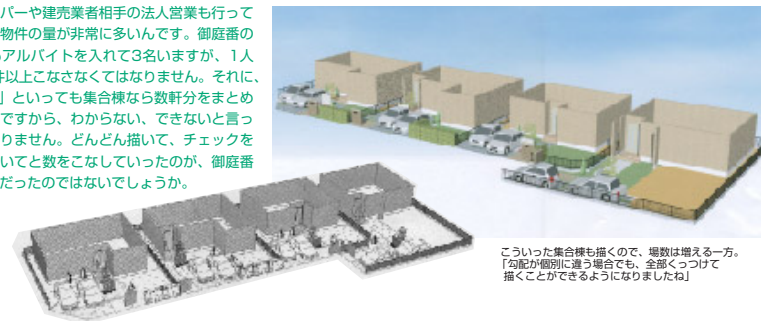


描き上がった御庭番をチェックし、細かい指示の指示が、この繰り返しで上達への道なのです。

上達へのステップ・その2

数をこなす！ 時間に迫られて描く！まさに「必要は上達の母」

当社はデベロッパーや建売業者相手の法人営業も行っているため、扱う物件の量が非常に多いんです。御庭番のオペレーターもアルバイトを入れて3名いますが、1人あたり月に20件以上こなさなくてはなりません。それに、たとえば「1件」といっても集合棟なら数軒分をまとめて描くんです。ですから、わからない、できないと言って時間はありません。どんどん描いて、チェックを受けて、また描いてと数をこなしていったのが、御庭番短期上達の秘訣だったのではないのでしょうか。



こういった集合棟も描くので、量は増える一方。「勾配が個別に違う場合でも、全部くっつけて描くことができるようになりましたね」